

下期企画カレンダー

★日時や内容は変更になる場合があります

1月	15(木)	男の料理 ●木曜コース 『ふるさと福井の味』	10:00~13:00	ハーツ学園
	17(土)	男の料理 ○土曜コース 『ふるさと福井の味』	10:00~13:00	ハーツ羽水
2月	19(木)	男の料理 ●木曜コース 『あつあつポットパイ』	10:00~13:00	ハーツ学園
	21(土)	男の料理 ○土曜コース 『あつあつポットパイ』	10:00~13:00	ハーツ羽水
		男の料理 ★特別企画 『みそ作り』	13:15~17:00	
3月	8(日)	出倉弘子の料理ライブ in 学園	14:00~16:00	ハーツ学園
	19(木)	男の料理 ●木曜コース 『味噌汁特集』	10:00~13:00	ハーツ学園
	21(土)	男の料理 ○土曜コース 『味噌汁特集』	10:00~13:00	ハーツ羽水
4月	12(日)	出倉弘子の料理ライブ in 学園	14:00~16:00	ハーツ学園
	16(木)	男の料理 ●木曜コース 春の食卓 ～ 祝い膳	10:00~13:00	ハーツ学園
	18(土)	男の料理 ○土曜コース 春の食卓 ～ 祝い膳	10:00~13:00	ハーツ羽水

編◆集◆後◆記

近年、社会現象になったといわれるほどの人気を博した漫画、『鬼滅の刃』と『進撃の巨人』には、ある共通点があります。それは、人が何かに「食べられる」危機にさらされているということです。

自然界において、すべての生き物は捕食者の影と常に隣り合わせです。しかし、人類だけは、知恵と強大な武器という手段をもって、長きにわたりこの生存の脅威から唯一解放されてきた存在です。その絶対的な安全が脅かされることの恐怖たるや、いかほどのものでしょう。その恐怖を覗き見る怖いもの見たさのような感覚が、それらの漫画のブームの一つの理由であると考えます。

この絶対的な安全が、近年、熊の人間社会への歓迎せざる出没によって脅かされていることに、人々は非常に敏感に反応しています。

熊の出没がニュースになると、その報道姿勢には「人食い」「狂暴化」や、被害の大きさを強調するセンセーショナルな言葉が目立ちます。これは、人々の心に潜在する「捕食される恐怖」を刺激し、事件の深刻さを強調するためでしょう。熊が身体能力で人間を圧倒する以上、それを凌駕する武器で対峙し、駆除せざるを得ない状況は、やむを得ない側面があります。しかし、その報道や議論の背景には、

私たち人類が勝ちとった「安全」を維持するために、生き物の生命を奪うことに対するシンプルな嫌悪感や倫理観を否定しようとする意図があるような気がして、もやもやした感情が残ります。一方、熊の駆除に反対する側の一部でも、手段を選ばない行動が見られます。例えば、AI生成のフェイク動画を、それがフェイクだと知ってか知らずかは不明ですが、意図的に拡散し、熊への憐憫と同情を誘うことで世論を誘導しようとしています。熊の命を救いたいという願い自体は尊くても、科学的な事実や冷静な議論をねじ曲げるような情報操作は大いに問題があると言わざるを得ません。

私たちは今、人間の安全と、それを脅かす動物の生存を両立させることの困難に直面しているのですが、それはまさに、冒頭で挙げた漫画作品の中で、人類が壁の中に築いた「絶対的な安全」が崩壊する恐怖や、主人公たちが鬼との戦いに、倫理的・感情的に苦悩する姿に重なります。

どちらも悪ではないからこそ、誰もが納得できる決着をつけられないこの問題。感情的な対立やフェイク情報に惑わされず、冷静な視点と倫理観をもって立ち向かうことが、現代人に課された試練だと感じます。

(Y)